

2024年9月1日 主日礼拝 聖霊降臨節 第16主日 聖餐礼拝

説教題：「**本質を見分ける目**」

聖書箇所：ルカによる福音書14章1 - 6節 (136頁)

説教者：秀島牧師 招詞：讚美歌93 - 1 - 51 交読詩編：詩編93編1 - 5節 (103頁)

讚美歌：83/54 (聖霊みちびく神のことばは) 419 (さあ、ともに生きよう) /785 (わが主よ、ここに集い) /27

「今週の聖句」〔そして、言われた。「あなたたちの中に、自分の息子が牛が井戸に落ちたら、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者がいるだろうか。」〕(ルカ伝14:5)

「牧師室の窓」 「関東の大震災より 百一年 見えぬ災害 心に刻む」

「梨の実の 店に現る 菊月は 楽しみ増えて 秋進み行く」

(1)皆様お早うございます。まず本日の説教の始めに祈ります。

今般の台風10号による災害を被られた方々にお見舞いを申し上げます。亡くなられた方々とそのご親族皆様に哀悼の意を捧げます。気象観測に従事されている方々、政府や自治体での職員の方々、鉄道や道路運営の方々、卸売業・小売業・運送業・郵便事業に携わる方々のご尽力に深く敬意を表します。被災地域での諸教会・教会員・地域の方々の復旧・再建のために祈ります。主の慈しみと御恵みがありますように。**アーメン**。

(2)本日の聖書箇所として、ルカによる福音書14章1節～6節を朗読して頂きました。朗読箇所は短いですが、本日の説教の対象箇所は1節～(隣頁にある)24節までを対象範囲とします。本日は聖餐式を行ないますので、礼拝の限られた時間の中で、対象範囲を全部読むことを省略いたします。但し、この対象範囲に共通な言葉に着目して参ります。それは「食事」であります。そして、「食事」という人々の行動の中に、イエス・キリストは私たちに「本質を見分ける目」を持つことを教えておられるのです。

早速今日の聖書箇所を見てみましょう。14章1節です。〔(14:1)安息日のことだった。イエスは食事のためにファリサイ派のある議員の家にお入りになったが、人々はイエスの様子をうかがっていた。〕ユダヤでは1日の始まりは夕方の日が沈む時から翌日の日没までです。分かり易い区分の仕方ですね。安息日とは、神が天地創造を終えられた休息日であり、エジプトでの奴隷状態から救い出された休息日でもありますので、如何なる労働もせずに、神を礼拝する日としたのです。1週間の区分で言いますと、金曜日の日没から土曜日の日没までの一日間です。

「イエスは食事のためにファリサイ派のある議員の家にお入りになった」と書かれています。

「ファリサイ派の議員」とはユダヤ社会の宗教的・社会的指導者層であり、議員(謂わば、国会議員)という特権階級の人物です。その人物がイエス様を食事に招待したのです。何故、招待したのでしょうか。何故、安息日に招待したのでしょうか。周囲の人々は興味津々で様子を見ているのです。

その場面に「イエスの前に水腫を患っている人がいた」のです。「水腫」とは体のリンパ腺が腫れて体内の水分が染み出てくる病気、当時の医療技術では治療が困難な病気であったと考えられます。その人が何故イエス様の傍(そば)にいたのでしょうか。イエス様がこの場所に来る前に会い一緒に来た、或いは、イエス様と一緒に来なさいと言われたのでしょうか。または、この議員たちがイエス様を陥(おとし)れるためにこの場所に連れてきたのでしょうか。

(3)状況が緊迫してきました。本来ならば、食事とは、愛情を深め友情を温める場面ではありますが、そうではないことがこの1節2節の僅かな文言が伝えています。この日は「安息日」です。旧約聖書の出エジプト記(20章10節)と申命記(15章14節)に記されている様に「いかなる仕事もしてはならない」と定められているのです。イエス様は律法の専門家たちやファリサイ派の人々がこのことを最重要事項としていることを見抜いて彼らに話しかけます。〔(14:3)…「安息日に病気を治

すことは律法で許されているか、いないか。」) 併し、「彼らは黙っていた」のです。答えられなかったのです。というよりは彼ら自身も律法の規定は1つではないことをことに気が付いてはいたものの、人々を指導する立場にあり、律法を重視する根幹を変えることが出来なかったものと考えられます。

それは何かといいますと、出エジプト記と申命記に書かれている「十戒」には「隣人」を大切すること、「殺人をしてはならない」ことが明確に書かれているのです。加えて、旧約聖書のレビ記19章には〔(19:18)…自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。〕と明確に記されているのです。人間は何か縛られると考える力も縛られてしまいます。主義・思想で人間を縛ることがあります。貧困・経済的な貧しさが人間を縛ることもあります。

私の学生時代には貧困が直ぐそばにありました。私の高校時代の授業料は月額で600円、大学時代は月額で千円(年間で1万2千円)でした。貧困から抜け出すために英語を数学を学び、経済学を法律を学びました。学んでいるうちに学校に通う道路にあった教会に導かれ聖書の御言葉によって心の自由を得て、この世の中で懸命に働いてみようと思われ就職しました。

(4) 本日の聖書に戻りまして4節を見てみましょう。〔(14:4)彼らは黙っていた。すると、イエスは病人の手を取り、病気をいやしてお返しになった。〕病人の病気は治ったのです。病人の喜びはいかばかりでありましたでしょうか。…余談ですが、私は現在病院に通院しています。責任ある立場の医師が私との数分間の面談で患者の顔を殆んど見ずにパソコンに表示されている私の病気情報画面を見ていることがあります。私は柔らかい口調で「先生、患者の顔を見ないで診察が出来ますか。私が現役時代に病院の立て直し・再建をした時には、医師も看護師も職員も患者の顔を見て仕事をすることが基本中の基本と申し上げてきました。」と、ソフトタッチで申し上げました。すると、さすがに優れたお医者さんです。事柄の本質を見分ける方、信頼できるお医者様なので私は安心してお任せしています。

5節をみてみましょう。黙りに続けている「律法の専門家たちやファリサイ派の人々に」に対するイエス様のお言葉です。〔(14:5)…あなたたちの中に、自分の息子が牛が井戸に落ちたら、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者がいるだろうか。〕極めて分かり易い言葉ですね。出エジプト記・申命記に書かれている「十戒(律法の基本・大原則です)」には安息日には人間だけではなく、牛などのすべての家畜を働かせてはならない、休息させる、つまり、その真意は、神の愛が注がれる対象となると教えているのです。十戒の本質は神の愛が注がれている、その事実を確認し、神に感謝するための安息日なのです。

イエス・キリストがお話しされていることは「井戸に落ちた」「息子が牛」のことを話してはいるのですが、「安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者がいるだろうか」と言っておられるのです。助けることは労働に当たる、従って「安息日」には労働をしてはならないとの律法の規定に反することになりますので、そんなことは出来ません… ええー？ 本当ですか、あなた方は本気でそんなことを言っているのか、考えているのか。

イエス様は物事の「本質を見分ける目」を持ちなさいと言っておられるのです。併し、悲しいかな、私たちの目は曇っていることが多々あり、殆ど曇っていると言っても過言ではないでしょう。このことばかりではありません。世の中には、不合理、不条理、いい加減なことが沢山あります。私は信徒時代の長い年数を職業人として過ごしてきましたので、ここのこのところを変更すれば世の中はもっと住み良くなると思うことが沢山あります。それは「本質を見分ける」と言う程のことでもなく、謂わば、ボタンの掛け違いともいえますが、社会が成熟しなくては変化させることが難しいのかも知れません。そのことを解決する手段の一つとして、「キリスト教」や「聖書の教え」があるのだと思います。息の長い歴史の中で教会が主の御言葉を伝えていくことの重

要性があります。物事は直ぐに変えることが出来ないことが多々ありますが、時間を、歳月を掛けて、確実に変えることが出来るのです。このことを放棄したり、諦めてはなりません。初代教会の歴史がそのことを証明しています。聖書を学び、神学を学び、歴史を学ぶことが必要不可欠です。

(5)今日の聖書箇所の中には小見出しで「客と招待する者への教訓」と書かれています。11節には〔(14:11)だれでも高ぶるものは低くされ、へりくだるものは高められる。〕この言葉はルカ伝1章の「マリアの讃歌」にも似た言葉が書かれています。もう一つ13節14節を見てみましょう。

〔(14:13)宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。/(14:14) そうすれば、その人たちはお返しができないから、あなたは幸いです。正しい者たちが復活するとき、あなたは報われる。〕ここにも「マリアの讃歌」と共通する考え方があります。それはマリアがルカ伝1章46節47節で神を賛美しています。一言で言えば「神を喜びたたえます」ということに他なりません。つまり、「安息日」とは貧しい人、体の不自由な人たちと共に神を讃える日なのです。かつ、15節～24節に書かれている小見出し「『大宴会』のたとえ」に書かれている様に、神の食卓に招かれるのは貧しい人、体の不自由な人たちであり、安息日に招かれるのはその人たちであると言っているのです。

…ここで大切なことを確認しなければなりません。「神の国での食事会」とは、教会の礼拝の中で行なわれる「聖餐/聖餐式」であります。この世の人々から見れば、単なるパンの一かけらと、僅かなぶどう酒/ぶどうジュースですが、クリスチャンにとっては「主と共に生きることを体験することのできる」パンとぶどう酒/ぶどうジュースであります。今日は聖餐式がありますので、心の中で存分に味わっていただきましょう。

加えて、物事の「本質を見分ける目」を私たちは今日の聖書箇所から養うことが出来るのです。聖書の面白さがここにあります。この世的に言えば、聖書の有用性がある、聖書は私たちの人生を切り開いてくれると言っても良いと思います。もっと、もっと、聖書を楽しみましょう。今日の箇所では私はそのことを強調したいと思います。

・・・お祈りいたします。

先程は台風10号による被害防止についてのお祈りをしました。本日9月1日は「防災の日」です。今から101年前の大正12年（1923年）に関東大震災が発生し、10万5千人が死亡・行方不明になり、膨大な資産が失われました。失われた命に哀悼の心を捧げます。現代に生きる私たちは災害に備え、聖書の御言葉に大切に参りたいと願っています。この地球上に現実には起きている戦争や戦乱があります。人間の知恵と勇気と慈しみによって平和が実現します様にお導き下さい。悩みの中にある一人ひとりに主の癒しがあります様に、イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン

〔**新共同訳**ルカによる福音書(14:1)安息日のことだった。イエスは食事のためにファリサイ派のある議員の家にお入りになったが、人々はイエスの様子をうかがっていた。/(14:2)そのとき、イエスの前に水腫を患っている人がいた。/(14:3)そこで、イエスは律法の専門家たちやファリサイ派の人々に言われた。「安息日に病気を治すことは律法で許されているか、いないか。」/(14:4)彼らは黙っていた。すると、イエスは病人の手を取り、病気をいやしてお帰しになった。/(14:5)そして、言われた。「あなたたちの中に、自分の息子が牛が井戸に落ちたら、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者がいるだろうか。」/(14:6)彼らは、これに対して答えることができなかった。〕

〔**聖書協会共同訳**ルカによる福音書(14:1)ある安息日に、イエスが食事のためにファリサイ派のある議員の家にお入りになったときのことである。人々はイエスの様子をうかがっていた。/(14:2)その時、御前に水腫を患っている人がいた。/(14:3)イエスは、律法の専門家たちやファリサイ派の人々に言われた。「安息日に病気を治すことは許されているか、いないか。」/(14:4)彼らは黙っていた。すると、イエスはその人を引き寄せ、病気を癒やしてお帰しになった。/(14:5)そして、言われた。「あなたがたの中に、自分の息子が牛が井戸に落ちたら、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者がいるだろうか。」/(14:6)彼らは、これに対して答えることができなかった。〕

〔**口語訳**ルカによる福音書(14:1)ある安息日のこと、食事をするために、あるパリサイ派のかしらの家には行って行かれたが、人々はイエスの様子をうかがっていた。/(14:2)するとそこに、水腫をわずらっている人が、みまえにいた。/(14:3)イエスは律法学者やパリサイ人たちにむかって言われた、「安息日に人をいやすのは、正しいことかどうか」。/(14:4)彼らは黙っていた。そこでイエスはその人に手を置いていやしてやり、そしてお帰しになった。/(14:5)それから彼らに言われた、「あなたがたのうちで、自分のむすこか牛が井戸に落ち込んだなら、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者がいるだろうか」。/(14:6)彼らはこれに対して返す言葉がなかった。〕